

1 学年 第3学年

2 活動名 学級活動(2)イ 「男女なかよく」

3 実践内容

本校の3年生は男子12人、女子12人の24人である。本校は単級のため、同じメンバーで2年間過ごしてきている。関係性も固まってしまうがちで、仲は良いが、互いの出来ていないところを必要以上に指摘したり、責めたりすることがある。そのため、学級活動「男女なかよく」では、再度お互いを認め合うことで、自尊感情を高めたり、相手に感謝する気持ちを育んだりすることをねらいとした。授業では、学級内での言葉遣いの指導や「いいねカード」を使った「良いところ見つけ」の活動を行った。

(1) 言葉遣いの指導

4月に学級開きをした際、子供たちに「この1年間で教室にどんな言葉を増やしたいですか」と問いかけた。子供たちからは「ありがとう」や「大丈夫」など、相手を思いやる言葉が数多く挙がった。次に、「逆に、この教室で増えてほしくない言葉は何ですか」と問いかけた。子供たちからは、「ばか」「きもい」などの、相手を傷つける言葉が挙がった。増やしたい言葉を紙に書いて掲示し、一人一人の思いを全体に共有した。



教室に増やしたい言葉の掲示

(2) 良いところ見つけ

良いところ見つけは、日替わりでクラスの一人に「今日のヒーロー」として皆の前に立ってもらい、その他の全員でその子の良い所を発表して褒める活動である。初めは、「良いと思います」「すごいと思いました」といった抽象的な言葉で褒めていたが、「詳しく言ってあげると、褒められた子もうれしいよ」と助言をすると、「国語の授業の時にたくさん発表していて、僕も見習おうと思いました。」や、「係活動をしていた時、手伝ってくれてありがとう」など、その子の具体的な姿を見つけて褒めることができた。褒められた子供からも「発表を頑張ったことを褒めてくれてうれしかったです。」「こんなにたくさん褒められたことがなかったから、とてもうれしいです。」という感想が挙げられ、互いのことを認め合う雰囲気をつくることができた。

4 成果と課題

【成果】

- ・ 教室で増やしたい言葉を掲示することで、言葉遣いに気をつけて生活をすることができた。
- ・ 自分の良い所を認められることで、友だちの良い姿を進んで探したり、認めたりしようとする児童の姿が見られた。

【課題】

- ・ 語彙が少ないため、友達の良い所を見つけられていても上手に言葉にできなかつたり、決まりきった表現になってしまったりする児童が見られた。